

共生から共働そして共創へ

共生とは共に生きる、共働とは共に働く、そして共創とは共に創ることで。

共創の概念が公式に紹介されたのは2004年で、Co-Creationの日本語訳が「共創」とされています。詳しくは、異なる立場の人々や団体が不足している資源を補い合い、協力して新しい価値を生み出していくことを意味します。

共創の関係性には以下があげられます。

①双方向関係

吸い上げと下し（垂直的） 向き合い（水平的）

②共有・オープン関係

皆で情報や課題を共有することで、問題解決や新たな創造が生まれます。

③提携関係

地位や規模に関わらず、一緒になって取り組みます。

共創に必要なこと

①共通目的を持つ

理念を先行させない。立場が違う人達や団体ですから、まずは相互理解に始まります。

②調整する

相互理解にも価値観や考え方、スタンスの違いが生じます。相手理解・受け入れに努める必要はあるのですが、受け入れ過ぎると。主体性の喪失や相手依存につながりかねません。

③一緒に取り組む

理屈だけは成立しません。気持ちだけでも成立しません。共にする楽しさや喜びがなくては長続きしません。共創による新たな価値の創設があってこそ、やりがいに結びつきます。

④それぞれに目的と役割がある

異なる立場ごとに役割や領分があります。

⑤ルールや枠組み、基準を設定する

一定のルールや基準、ラインがないと、バラバラになりかねません。

昨今は業種や立場の壁を超えたコラボレーションも多く見られます。生産者と消費者による共創や官民共創もそのひとつです。